12/3 毎日

コロナ あしなが遺児苦境

母親 バイト先2カ所クビに 高校生 進学希望言えず

育英会 1人あたり20万円支給へ

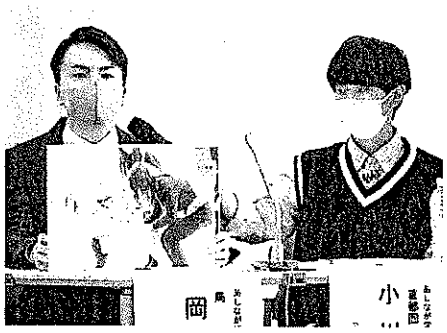
「腐ったレタスの中から、わずかに食べられる部分を探した」。親を亡くした子どもを奨学金で支援する「あしなが育英会」（玉井義臣会長）は、遺児や保護者にコロナ禍の影響について調査した結果を発表した。そこでは日々の暮らしに困窮する遺児たちの悲痛な声が多く寄せられ、生活面への影響の大きさが浮き彫りになった。また、育英会は対策として奨学生1人あたり20万円の支給を行うことも合わせて公表した。

「あしなが育英会」は、東京都千代田区の「あしなが育英会」本部で記者会見を行い、アンケートによる調査結果と緊急支援策を発表した。アンケートは今年10～11月、同会の奨学金を利用する高校生と大学生、その保護者を対象に実施し、計6241人から回答を得た。

調査によると、保護者の36・7％が「コロナ禍によって収入が減った」と回答した。支出を抑えるためにしていることを複数回答で尋ねたところ、57％が「食事の回数を減らす、親の食べるものを減らす等して食費を抑えている」と答えた。交際費や光熱費を切り詰めるという回答は、それぞれ6割に上った。

回答した保護者のうち母親は8割に達し、年齢層は9割が40～50代。就業形態を問うと、派遣などの非正規職やパート・アルバイトが4割を占めた。不安定な就労状況にある家庭が多く、生活を切り詰めて支出を抑えている状況が浮かび上がってくる。

また大学生でも、感染拡大前後の今年1月と9月を比較し、バイト代が「減った」、あるいは「なくなった」との回答が50・4％に上った。また、コロナ禍の影響を複数回答で尋ねると、「被服費を削っている」（38・2％）▽「勉強などに関わる出費を減らしている」（27・9％）▽「食事を我慢している」（22・3％）――などの回答が寄せられた。さらに、25％の大学生が「今年度に入り退学を考えたことがある」と答えた。



記者会見で遺児奨学生の現状を訴えるあしなが育英会大学奨学生の岡本瑞さん（左）＝東京都千代田区で11月

あしながが遺児四万人 小…岡

あしながが遺児四万人

あしなが育英会本部

あしなが育英会

あしなが育英会

あしなが育英会